



季刊

弥生の出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第30号

(2018年7月)

★夏季企画展

「ふるさと今昔物語 その2」

— 多伎町・湖陵町 —

7月14日(土)～9月24日(月・振)

【入場無料】

出雲市として合併する前の旧市町が紡いできた歴史を、文化財をとおして紹介する企画展「ふるさと今昔物語」シリーズ。第2回の今回は、「多伎町・湖陵町」にスポットライトをあてます。

出雲市の西南部にある多伎町と湖陵町はともに日本海に臨むまちで、両町とも歴史に特色があります。以下、今回の展示で取り上げる主な文化財を紹介します。

多伎町の文化財

多伎町を代表する遺跡としては、国史跡の田儀櫻井家たたら製鉄遺跡が挙げられます。江戸時代初期から1890(明治23)年までの約250年間、田儀櫻井家によるたたら製鉄は、多伎町を主な舞台として営み続けられました。宮本鍛冶山内遺跡(奥田儀や越堂たたら跡(口田儀)など鉄生産に関わる遺跡はもとより、生産された鉄の搬出や、木炭・砂鉄などの原料の搬入に利用された田儀港が、かつての風情を今に残してい

ることは、多伎町の大きな魅力の一つになっています。

田儀櫻井家によるたたら製鉄は、丘陵地帯と海岸線を有する多伎町の地の利を活かして発展した、出雲西部の一大産業だったのです。



田儀の町並と田儀港

湖陵町の文化財

これまで神西湖南の江南地区では、御領田遺跡や三部竹崎遺跡など縄文時代以降の遺跡が多く見つかっていました。

一方、神西湖西の西浜地区では厚く堆積した砂に阻まれ、遺跡はほとんど確認されていませんでした。この地は奈良時代に編さんされた『出雲国風土記』の「菌の長浜」項で「砂が飛び散り、また流れてこの松林を覆い埋め、やがて、全部埋まってしまうのではなからうか」と危惧されるほど、砂丘の移動が大きかった地域です。

そのため、遺跡が存在しても発見が非常に難しい地域だったので、2008(平成20)年から進められていた土地区画事業の一環で、工事中に遺物が見つかりました。

坂津焼山遺跡と名づけられたこの遺跡は、2011(平成23)年に市文化財課が発掘調査を行ったところ、奈良時代ごろを主とする土器が多く出土しました。遺跡を覆う砂の層は5m以上もあるので、坂津焼山遺跡の発見は幸運に恵まれたといえるでしょう。



板津焼山遺跡の土器

ここで紹介した遺跡のほか、今回の企画展では多伎町の経塚山古墳から出土した勾玉などの玉類(島根大学考古学研究室蔵)や、湖陵町の阿禰神社に伝わる『出雲風土記俗解抄』など、普段は見ることができない貴重な文化財も展示します。この機会に是非ご覧ください。

(三原一将)

★ギャラリー展Ⅱ

お披露目!!新発見の

『出雲国風土記』

7月25日(水)～9月3日(月)

『出雲国風土記』がまとめられたのは、733(天平5)年のことで、当時の出雲国の地名、その由来、あるいは動植物などが記されました。本来は、天皇への上申文書で、2巻の巻物の体裁であったと考えられています。現在、私たちが目にするような、冊子の形となるのは後のことです。『出雲国風土記』と名付けられたのも、平安時代以降です。ただし、それがどのようにして後世に伝えられたのかは、よく分かっていません。

現存する『出雲国風土記』の多くは江戸時代の写本で、約190冊を確認できます。そのほとんどが、出雲以外の地域で書写されたものです。江戸時代、社会が安定してくると、自らの土地の歴史を再確認しようとする動きが全国各地で始まり、新たな地誌が編み込まれました。そうした地誌の祖とされたのが『出雲国風土記』で、そのため、各地で多くの写本が書き写されたのです。

昨年度、当館に一冊の『出雲国

風土記』の写本が寄贈されました。

この写本は、これまで研究者の間でも知られていないもので、今回初めての展示となります。書写の年代は明記されていませんが、文章の体裁や内容から、江戸時代半ばごろ(18世紀)のものと考えられます。

この写本を調べると、兄弟本とも呼べる写本の存在が分かりました。それらは、出雲、大坂、平戸(長崎県)に所在した写本で、その背景には当時の文化人のネットワークが介在したことが見えてきました。

(高橋 周)



出雲国風土記に載る「出雲御崎山」
みさきやま

★祝!重要文化財

上塩冶築山古墳出土品のご紹介

国史跡の上塩冶築山古墳は、出雲市上塩冶町にある6世紀末頃の円墳です。今夏、その出土品が国の重要文化財に指定されることになりました。これを記念して、7月9日まで今回指定される140点すべてを初公開し、上塩冶築山古墳の実像に迫る展示を行いました。

古墳は、1887(明治20)年、土地所有者により石室が開けられ、豊富な副葬品が発見されました。

墳丘直径は46m、石室全長は146m、大石棺の長辺は28mあります。いずれも同時期の出雲西部では最大です。それは、山陰地方に比較的范围を広げても変わりません。

石室内には大小2つの石棺が置かれ、それぞれに一人ずつ埋葬されていると推測されます。副葬品の出土位置は、当時の記録や聞き取り調査から推定されています。

大石棺に伴うと推定できる副葬品は、金や銀で飾られた大刀、銀の馬具、鉄鏃、銅鈴など、小石棺に伴うのは、金の冠、金や銀で飾

られた大刀と馬具、玉類などです。これらから、大石棺の被葬者は、出雲西部を支配し、山陰でも突出した勢力をもつ人物、小石棺の被葬者は、トネリとして大和の大王や王族に仕えた人物と推測しました。

上塩冶築山古墳の特色は、保存状況の良さであり、そのため、墳丘・石室・石棺・出土品をそれぞれ詳しく検討できるのです。このように保存されてきた大規模な6世紀の古墳は、中四国地方では、上塩冶築山古墳だけといえるでしょう。この点が高く評価され、重要文化財に指定されます。

(坂本豊治)



朝鮮半島から輸入された銀の馬具
大石棺の被葬者に伴う副葬品と推定

★日本遺産

『日が沈む聖地出雲』の文化財
(第4回)

日本遺産「日が沈む聖地出雲」を彩る構成文化財紹介第4弾！

今回は、青い海と新緑の山々に囲まれた日御碕エリアでひとときわ目を引く朱色の社殿、日御碕神社に注目します。

奈良時代の『出雲国風土記』に「美佐伎社」、平安時代の『延喜式』に「御碕社」として登場する、由緒ある古社です。戦国時代以降には、朝廷や幕府、大名らの崇敬を集めました。

境内に建ち並ぶ多くの建造物は、江戸時代初期、3代将軍徳川家光の命で造営が始まり、1643（寛永20）年に完成しました。このうち、日沉宮・神の宮社殿や楼門などは国の重要文化財です。

①神の宮(上の宮)

境内の高台に鎮座し、スサノオを祀ります。古くは、社殿の後



日御碕エリア



日沉宮の社殿

ろの「隠ヶ丘」にありましたが、1500年前に現在地へ遷されたことと伝われます。日沉宮と同じ建築様式ですが、一回り小さく造られています。

②日沉宮(下の宮)

アマテラスを祀る権現造の社殿です。かつては後方沖に浮かぶ経島にあり、948（天曆2）年に勅命で現在地に遷されたと伝わります。「日が沈む聖地の宮」を意味する名称は、日の出に象徴されるアマテラスを日没の夕日を結びつけた、出雲独自の世界観を伝えてくれます。

また、本殿の妻飾りに施された美しい彫刻には、アマテラス、ツクヨミ、スサノオの三貴子を表すという太陽、月、星が刻まれています。ぜひ、現地でご覧ください。

(景山このみ)

★博物館にご寄附を
いただきました。

昨年、「視覚障がいのある方や子どもたちが、触れることで歴史文化を学び、また、面白さを体感することができるようなものに充ててほしい」とご寄附をいただきました。ご寄附をいただいた方や視覚障がいのある方と相談し、次の体験グッズを購入しました。

- 土器パズル
- 木製農具のレプリカ
- 木材体験キット
- 勾玉のレプリカ

これらのものは、たいけんコーナーに設置してありますので、ご利用ください。

この度の善意に心からお礼申し上げます。



木製農具のレプリカ

★出雲弥生の森公園
フレンドクラブ

ポイ捨て禁止推進協議会表彰

出雲弥生の森公園フレンドクラブ（井上明男会長、会員数31名）は、平成17年に発足して以来、『育てよう出雲弥生の森』を合言葉に、西谷墳墓群史跡公園「出雲弥生の森」の清掃、除草や花壇の管理などの美化活動に取り組まれていきます。この多年に渡る功績が高く評価され、5月21日に「出雲市ポイ捨て禁止推進協議会」から表彰されました。

美化活動の様子

出雲弥生の森公園フレンドクラブの美化活動は、月1回（8月及び12月、2月を除く）行われます。5月12日には、今年3回目の美化活動が大津慶友会の皆さんと一緒に行われました。

このように、史跡公園の美観は、フレンドクラブを始めとする地域の皆さんのため活動により保たれています。



★企画展・講座などのご案内

▼夏季企画展

「ふるさと今昔物語その2」

—多伎町・湖陵町—

7月14日(土)～9月24日(月・振)

●関連講座

「遺跡が語る多伎・湖陵の歴史」

8月25日(土)14時～

【講師】三原一将(当館)

●ギャラリートーク

7月21日(土)・9月15日(土)

いずれも10時～

▼ギャラリートーク

「出雲市の新指定文化財」

開催中 7月23日(月)まで

「お披露目!新発見の『出雲国風土記』」

7月25日(水)～9月3日(月)

「猪目洞窟遺跡(仮)」

9月5日(水)～12月3日(月)

▼速報展

「国史跡 出雲国山陰道跡」

開催中 9月10日(月)まで

▼スポット展

「いっせいで戦後でありたい200-8」

8月1日(水)～9月3日(月)

▼出雲弥生の森博物館職員リレー講座

「出雲弥生の森博物館本

『出雲国風土記』の系譜

9月1日(土)14時～

【講師】高橋 周(当館)

★イベントのご案内

▼将棋フェスティバル

7月22日(日)

「プロ棋士指導対局」

9時～12時

棋士 船江恒平 六段

里見香奈 女流四冠

「ジュニア将棋大会」

13時～17時

【開催】大会実行委員会事務局

【電話】21-7580

※参加の受付は終了しました。

▼藍の生葉染め体験教室

8月11日(土・祝)10時～12時

●場 所 たいけん学習室

●募集人数 20人 ●参加無料

※事前申込みが必要です。

汚れてもよい服装でご参加

ください。

▼弥生の森お月見コンサート

9月23日(日・祝)18時～

秋の一夜、お月見と素敵な演

奏で癒しのひとときをお過ご

してください。

前売券 500円

当日券 700円

(中学生以下無料)

8月上旬から発売予定

【開催】弥生の森おおつ・鐘推

【電話】090-4800-2835

★館長古来夢

7月、夏空と入道雲、とくれば発掘現場。それは私が若いころの「定番」でした。初めての夏の現場は、1974年の富田川川床遺跡。場所は広瀬町(安来市)の飯梨川。広瀬では「富田川」が通称です。ここには、かつて富田城の城下町がありました。尼子経久から毛利氏、さらに吉川広家、堀尾忠氏まで、彼らの居城を支えた町並みは城のすぐ下にあつたのですが、藩主が松江に移つて半世紀後、川の氾濫によつて埋もれてしまつたのです。

その現場では、川床から現れる建物跡などの調査を手伝つていました。ただ、記憶に残るのは見つかった江戸時代の井戸で冷やしたスイカの味くらい。その後、松江、奈良、茨城、飛鳥、あちこちの夏空の下で発掘を経験しました。

海外で何年も通つたのが、カンボジアのアンコール遺跡群でした。バンテアイクテイという石造寺院の発掘で、チームにはプリンペン大学の学生たちが参加してくれました。炎天下の調査の合間に恒例だったのが、日本チームと学生チームとのサッカーです。会場は、アンコール観光の拠点であるシェムリアップの競技場。ある時、グラウ

ンドの片隅に不思議なものが立っているのに気づきました。傘の柄を逆さにしたような、高さ5メートルほどの構造物です。学生に「何だアレ」と尋ねると、「Hanging Tree」との答え。夏の光に照らされて白くたたく「傘の柄」は、この国を恐怖政治で覆つたポル・ポト時代の遺産でした。

さて、1945年7月28日、ここ出雲市はアメリカ空母艦載機の空襲を受けました。斐川にあつた海軍航空基地一帯が機銃掃射の標的となつたのです。その時の銃弾の痕跡は、いまもJR山陰線の新川鉄橋に残されています。その日も、そしてそれから半月後の8月15日にも今と変わらぬ夏空と入道雲がありました。もうすぐ、蝉しぐれとともに慰霊の夏がやってきます。(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館 2018年7月

〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

- 入館料 / 無料
- 開館時間 / 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 火曜日 (祝日の場合は翌平日) 年末年始

